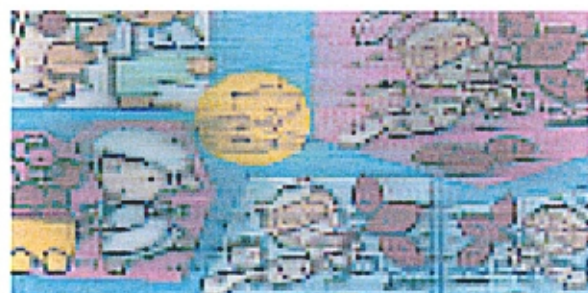


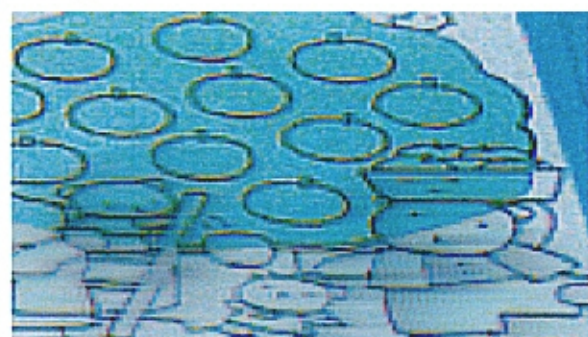
教材・教具名 作業プリント

領域・教科 作業学習

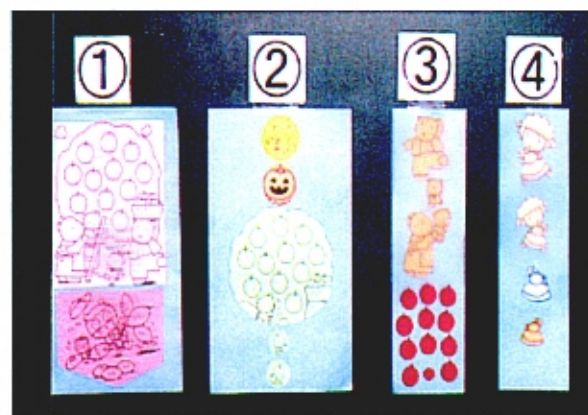
◇ 作業プリント (10月 A・C)



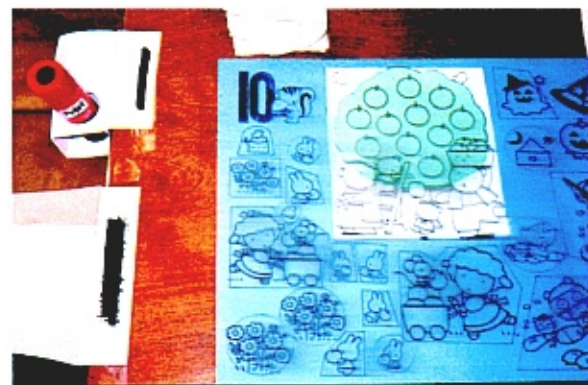
10月 C



◇ 手順表



◇ 作業用具等



◇ 指導のねらい

- その月の風物等の絵柄に、興味関心を持ち、楽しみながら、鋏・カッターナイフ・糊などの扱い方に慣れる。
- 見本、並びに手順表等を参考に、作業手順を守り、丁寧に作業を進めることにより、目と手の協応動作や手指の巧緻性、指示理解力を高めると共に、集中力を育てる。

◇ 基本の使い方

- 4月～3月まで12ヶ月分のオリジナル作業プリント(各月同じ図柄、3種類準備：作業能力により、課題・目標に応じて難度を工夫)を、各月の上旬に5～6時間程度の時間配当で行う。
- 作業に必要な、用具(角箱・鋏・糊収納ケース・糊・糊つけ紙・手ふき布・作品入れ)を自分で準備する。
- 黒板に、見本と作業手順表を掲示し、作業の流れや方法を理解し、(本時の)目標を持つ。
- 手順表に従って、作業を進める。必要に応じて自分から支援を求める。
- 作業能力に応じて、自分なりの仕上げの仕方を工夫させる。できあがった友だちのプリントから互いの良さを認め合い、次の作業に生かす。
- 作品は、各月毎に教室に掲示する。  
\*年度によっては、12ヶ月分の作業プリントをもとに「オリジナルカレンダー」に加工したりして活用している。

◇ 指導の評価

- 知的障害・情緒障害の双方の学級で活用している。同一の図柄で、難易度の異なる複数の見本プリントを準備しているのので、個々の能力や課題に応じて、自らの課題を自覚し、目標を持って取り組んでいる。また、図柄が、各月の風物であるので、季節感や行事に対する思いを膨らめながら、訓練という意識を持つことなく楽しみながら意欲的に取り組み鋏・カッターナイフの技能や巧緻性を高めている。
- 知的障害のある生徒で、目と手の協応動作や、手指の巧緻性が乏しい生徒や図形や大小の認知力の弱い生徒などにおいても、直線を曲がらずに切るための補助具の活用によるトレーニング、教師の切り取った部品を該当する部分に当てはめ丁寧に貼る、部分的に色塗りを取り入れるなどの作業内容の工夫により、仕上がりの見劣りもなく自信を失うことなく、自分なりの目標を持って意欲的に取り組む中で、少しずつ巧緻性や指示理解力等を高めている。
- 知的障害、情緒障害をもち指示を聞く力や見通しを持って順番に作業を進めることの苦手な生徒たちにとっては、「手順表」が有効に機能し、指示に従い手順通りに作業を進めることの大切さが理解され、習慣化されてきている。
- 身の整理・整頓ができない生徒にとっては、使用している用具(角箱・糊収納ケース等々)を、しっかり準備させ、活用することにより、物を大切に扱い身の整理して作業を進めることで、より作業がしやすくなることが理解されてきている。